

宮代台自治会 文化祭

# 宮代町の歴史

宮代町郷土資料館

河井伸一



# 旧石器時代の宮代

- 約2万年前から宮代町に人が住み始めた
- 黒曜石等を使って石器を作った。
- 長野県の和田峠や諏訪、栃木県高原山が産地。秋田県の男鹿半島産のものも確認されている。



○黒曜石の来た道 (旧石器時代)

## 石の道

旧石器時代の道具の一つである石器を作るための黒曜石や安山岩は、関東地方をはじめ、遠く信州からも運ばれてきた。旧石器時代何万年もの間、人々が歩いた石の道があったのである。



○ガラス質黒色安山岩の駒きと逆井・金原産地 (山本薫1999『日本考古学協会第65回総会研究発表要旨』一部改変)

## 草原の狩人たち

第一巻 原始土民

草原の中、オオツノシカを追いかける狩人達がいた。広がる草原、深い谷、寒冷な気候の中で、赤々と燃える火を囲む人々の姿があった。今からおよそ二万年前のことである。旧石器時代の遺跡は町内に八か所ほどあり、ナイフ形石器や細石刃などが発掘されている。そうした石器の素材は、黒曜石や安山岩と呼ばれるもので、遠く長野県や茨城県・栃木県方面などから運ばれてきた。旧石器人もまた旅人であった。

前原遺跡  
(旧町当前原グラウンド、現在は前原中学校校庭)  
昭和55年発掘調査実施

石器を製作した場所



前原遺跡出土の  
ナイフ形石器  
(槍の先)

# 逆井遺跡の細石刃



- 左が細石刃。右が細石刃核。細石刃はカミソリの様な柄に複数の刃をはめて使う石器。
- 細石刃核は細石刃を作り出す石器。これが発見されると、石器の製作場であることが分かる。
- 埼玉県東部地区では唯一の遺跡。

# 宮代町最古の土器と発掘調査



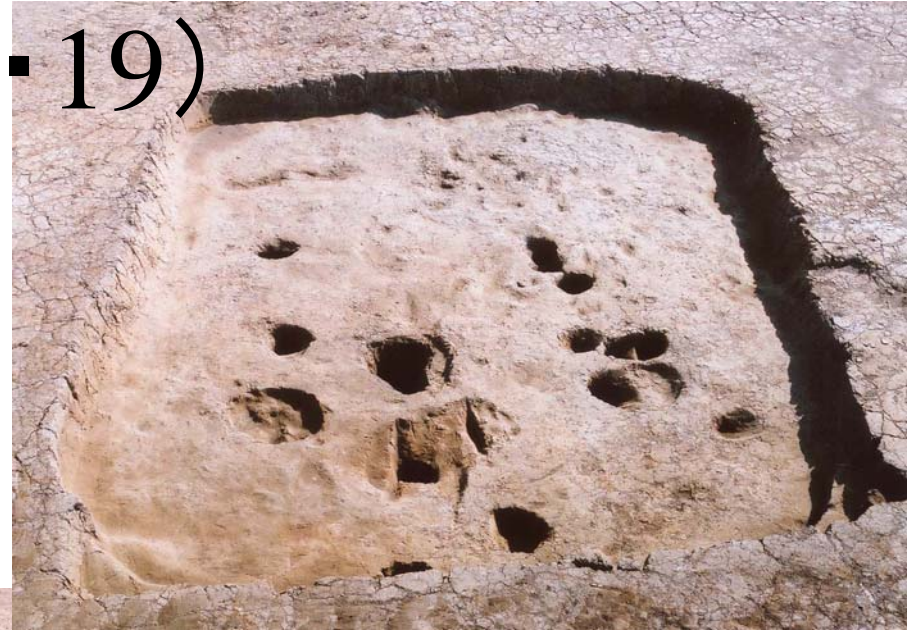
- 上は約12,000年前の最も古い土器。埼玉県東部地区では唯一の土器
- 左は関東ローム層の中に見える遺構。平成14年度地蔵院遺跡



# 道仏北遺跡(H18・19)

道仏区画整理事業

約5,500年前の住居跡。四角い住居跡



この時期は最も東京湾が内陸に進入した時期であったため、海辺であった。

四角い住居跡が丸い住居跡と重なる。四角住居跡が5,500年前。丸い住居跡が5,000年前

# 宮代町で出土した縄文時代後期約3,500年前の土器

・宮代町で最も遺跡の数が  
増える時期

1, 2, 3, 7は金原遺跡(はらっぱーく宮代)。4は前原遺跡(前原中学校校庭)、5, 6は藤曾根遺跡、8は山崎山遺跡(トクホン工場)



# 山崎遺跡(H18・19)



上が柄鏡形住居跡(約3,500年前)、右上が伏甕。底部に穴があいておる。右が、住居跡から出土した建築部材。材木は栗



# 鍛冶工房跡(山崎山遺跡)



約1650年前の鍛冶工房。埼玉県で最古の鍛冶工房。多量の鉄くずが出土。

竪穴式の建物跡

郷土資料館内で剥ぎ取りしたものを復元展示

鉄挺は朝鮮半島産

# 鍛冶工房から出土した遺物



上が土師器

右が棒状鉄製品や鉄く  
ず



# 姫宮神社古墳



約1,500年前の埴輪

今年発掘調査が行なわれた道仏遺跡に住む豪族の墓域が姫宮神社古墳群ではないか？

# 古墳時代の遺物



上は宮代町唯一の勾玉。  
道仏北遺跡(H18・19)  
で発見されました。

左は古墳時代前期から  
後期の土師器と須恵器。  
宿源太山遺跡、道仏遺  
跡から出土しました。

# 鎌倉街道



平成15年3月、宮代町大字東桑原字宿屋敷から戦国時代の道路状遺構と中世の集落跡が発掘されました。これは鎌倉街道中道とその宿場の跡と推定されます。

## いざ、鎌倉

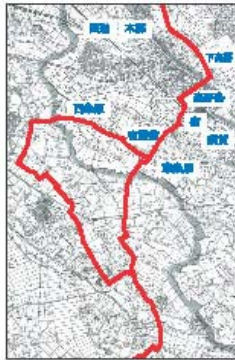
第二章 中世

鎌倉時代、将軍（鎌倉殿）と主従関係を結び、御家人と呼ばれた武士たちは、「いざ鎌倉」といわれるように、非常時に鎌倉に馳せ参じた。彼らの通った道が鎌倉街道である。官代町内を通る鎌倉街道は、「中道」などとよばれ、東北方面から古河を経て、幸手・高野・須賀・久米原・高岩谷（白岡町）―岩槻―鳩ヶ谷―川口から武蔵府中を経て鎌倉に至った。



### ○埼玉県内の鎌倉街道

おもな鎌倉街道は、鎌倉から化粧坂を越えて奥川流域を北上し、武蔵国府（府中）から関東山地の東麓を北に進んで高崎に出て、豊後、越後へと抜ける上道、鎌倉の山内から中央部を北に向い、奥州方面に行く中道と、武蔵金沢から東京（江戸）南を東に向い荒田川を渡って下郷・上郷に通じる下道であった。



### ○宮代町内の鎌倉街道

宮代町内には、高野の渡りで古利根川を渡り、自然堤防上を南下し、真藏院の南側から東桑原の鬮宮神社に抜け、台地上を岩付方面に向う道と、東桑原の鬮宮神社から爪田ヶ谷、太田新井方面へ抜ける道があったと伝えられる。

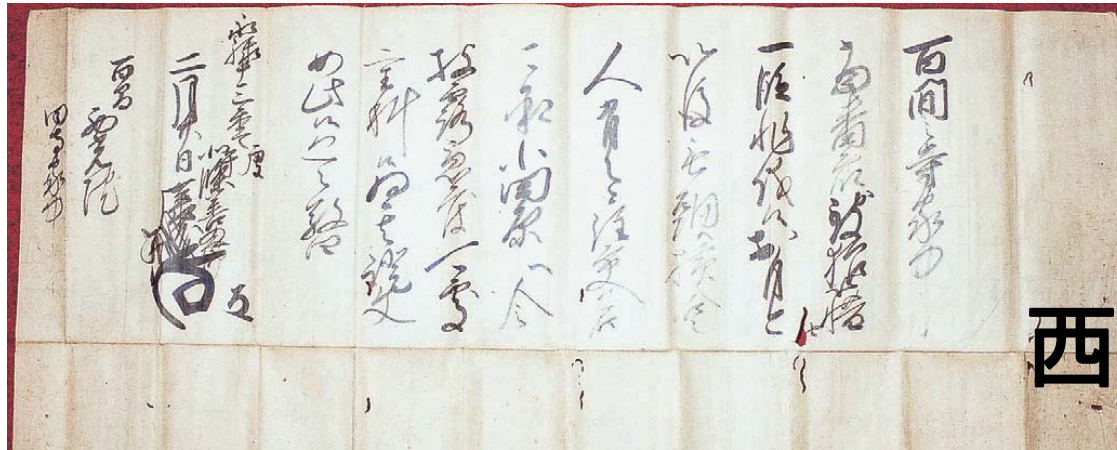


○関東御書  
（南名寺行蔵、神代川（現立金沢文庫））  
鎌倉期には、称名寺に対して高野川（古利根川の高野付近の別称）の横の権利を先例通り認めた。称名寺は古利根川左岸の下河辺荘の領主であった。

# 西光院



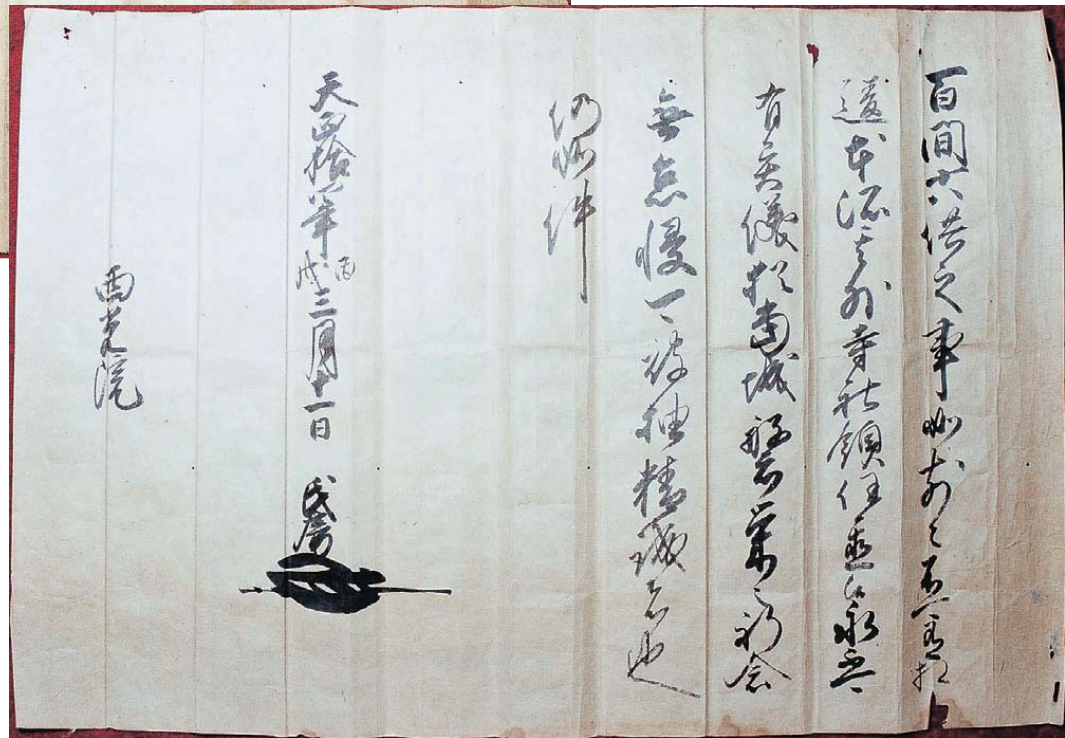
西光院は宮代町で最も由緒のあるお寺です。百間村の中心地でもありました。この写真は昭和27年に焼失した西光院本堂と玄関、庫裏です。荘厳な佇まいが分かります。中世には、後北条氏、近世には徳川氏の庇護を受けました。将軍からの朱印状や徳川家康画像も残っています。



# 西光院中世文書

上は北条康成書状。  
康成は岩付城代でした。

右は北条氏房判物。  
氏房は後北条当主北  
条氏直の弟で岩付城  
主でした。



## 西光院四脚門



○旧西光院四脚門（西光院所蔵）  
かつての西光院の山門で、昭和27年（1952）の火災で焼失した。室町時代に建立されたものと思われる。



○『新編武蔵風土記稿』に見える雷電神社門口（独）国立公文書館所蔵  
天文22年（1553）に五社神社と阿彌陀堂の間にあった雷電神社に奉納されたもので、『新編武蔵風土記稿』に掲載されているが、現在は所在不明である。



○十一面観音菩薩立像（西光院所蔵）  
（富時代指定文化財）  
寄木造で玉眼が嵌め込まれている。かつては西光院末の観音堂（虎寺）の本尊で、幸手一色氏の寄進であると伝えられ、室町時代に造られたと推測される。



○阿彌陀如来坐像（地蔵院所蔵）（富時代指定文化財）  
檜材寄木造で、後世に大規模な修理が施され、彫刻は玉眼に改められているが、平安時代末期から鎌倉時代初期に造られたと推測される。

# 浄土の国へ

浄土のくにへ  
第二章  
中世



左は笈ヶ岳経筒。明治時代に石川県で発見。武州太田庄光福寺と記される。光福寺とは西光院の別名。東京国立博物館所蔵。





## 西光院阿弥陀堂

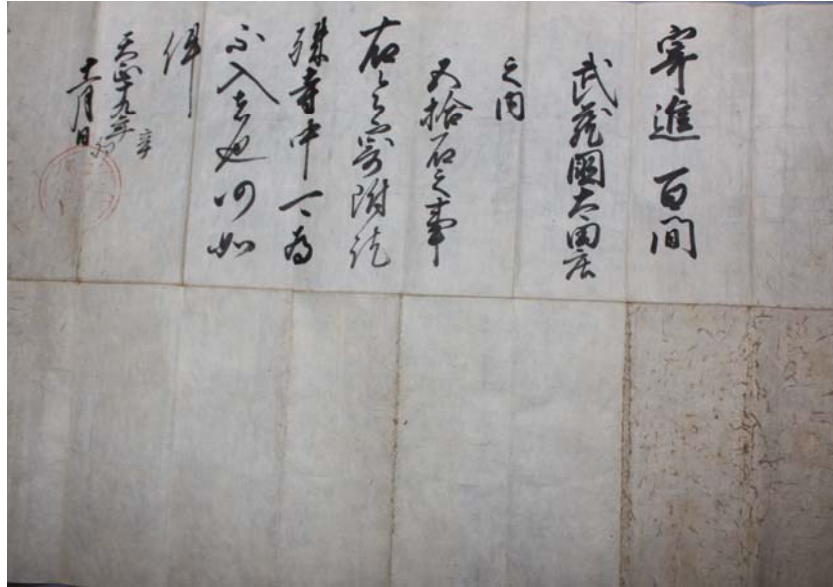
昭和27年に焼失。室町時代の建物。残っていれば国宝級。

# 西光院阿弥陀三尊像



国の重要文化財。阿弥陀堂に元々あった。現在は東京国立博物館に寄託。

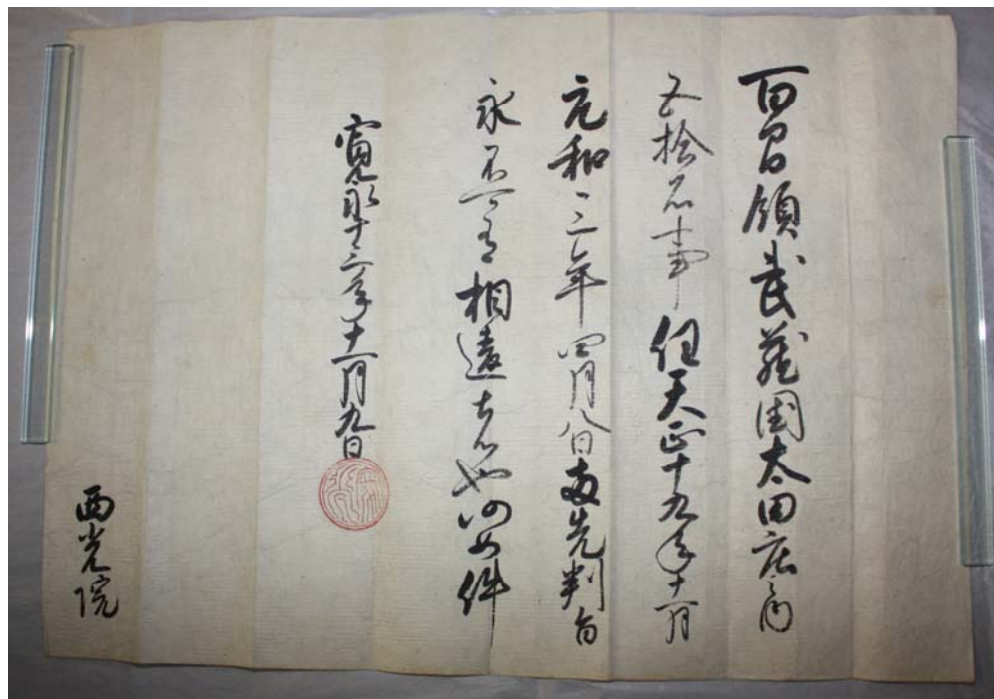
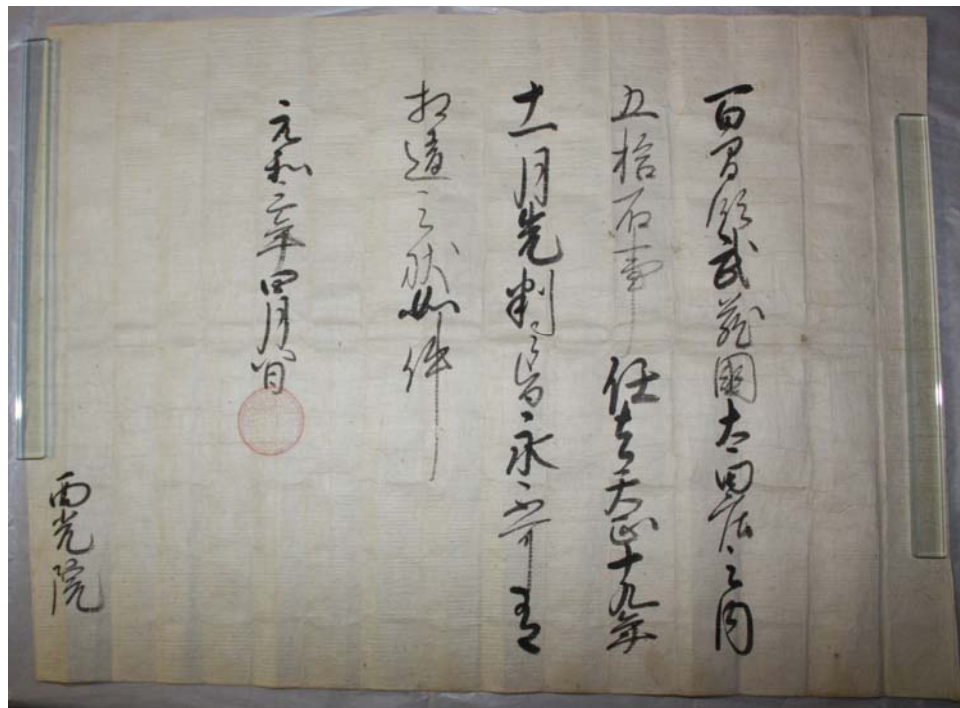
# 徳川家康朱印状と家康画像



右の徳川家康画像は元々、西光院東照宮  
にあったもの。昭和27年焼失したが画像は  
残った。

上の徳川家康朱印状は太田庄の内50石を  
西光院に寄進したもの





上の写真は栗田焼の茶碗。  
三つ葉葵の家紋が入る。左  
上は徳川秀忠朱印状、左下  
は徳川家光朱印状。西光院  
には歴代将軍12名の朱印  
状が残る。



西光院絵図

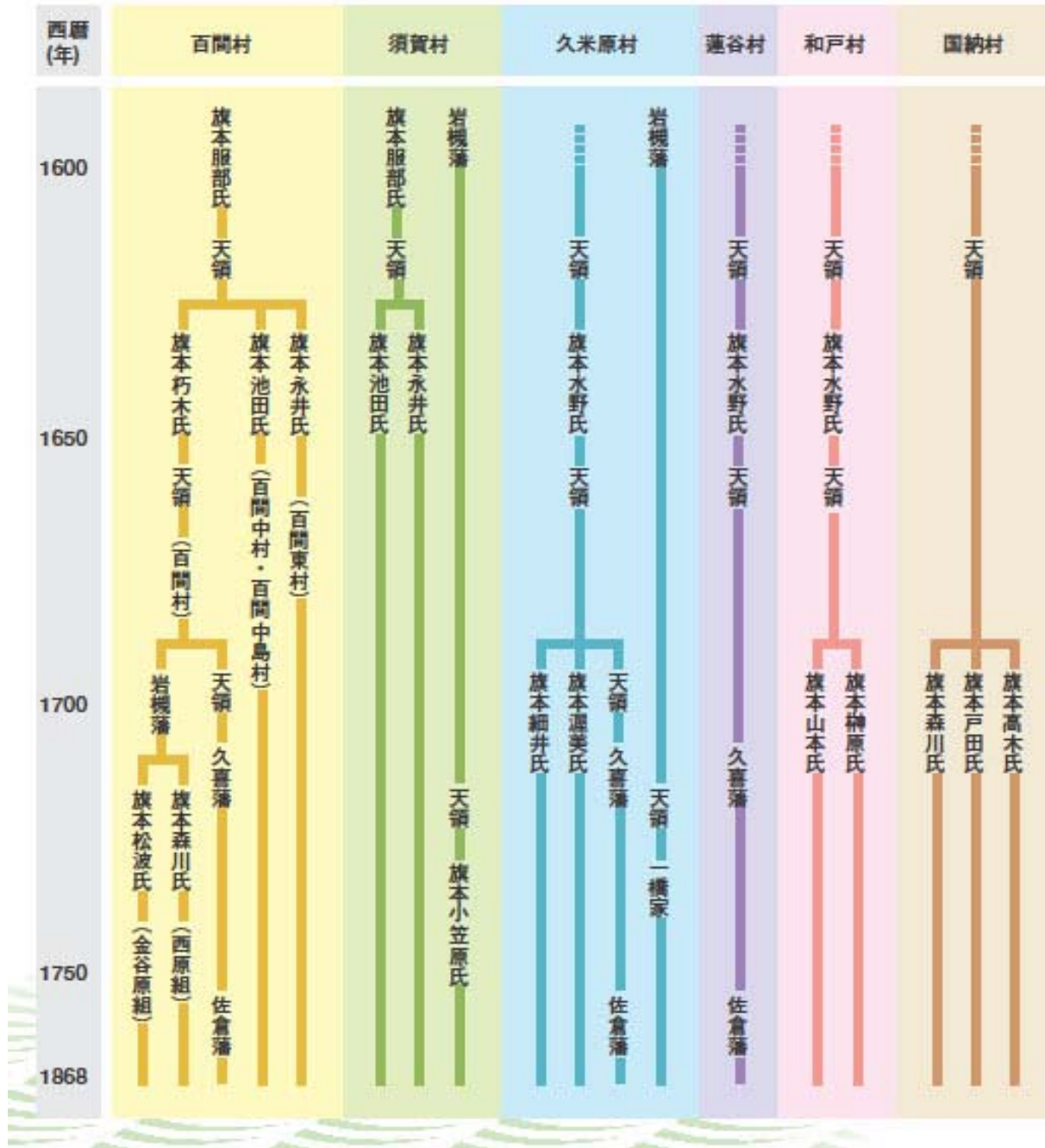


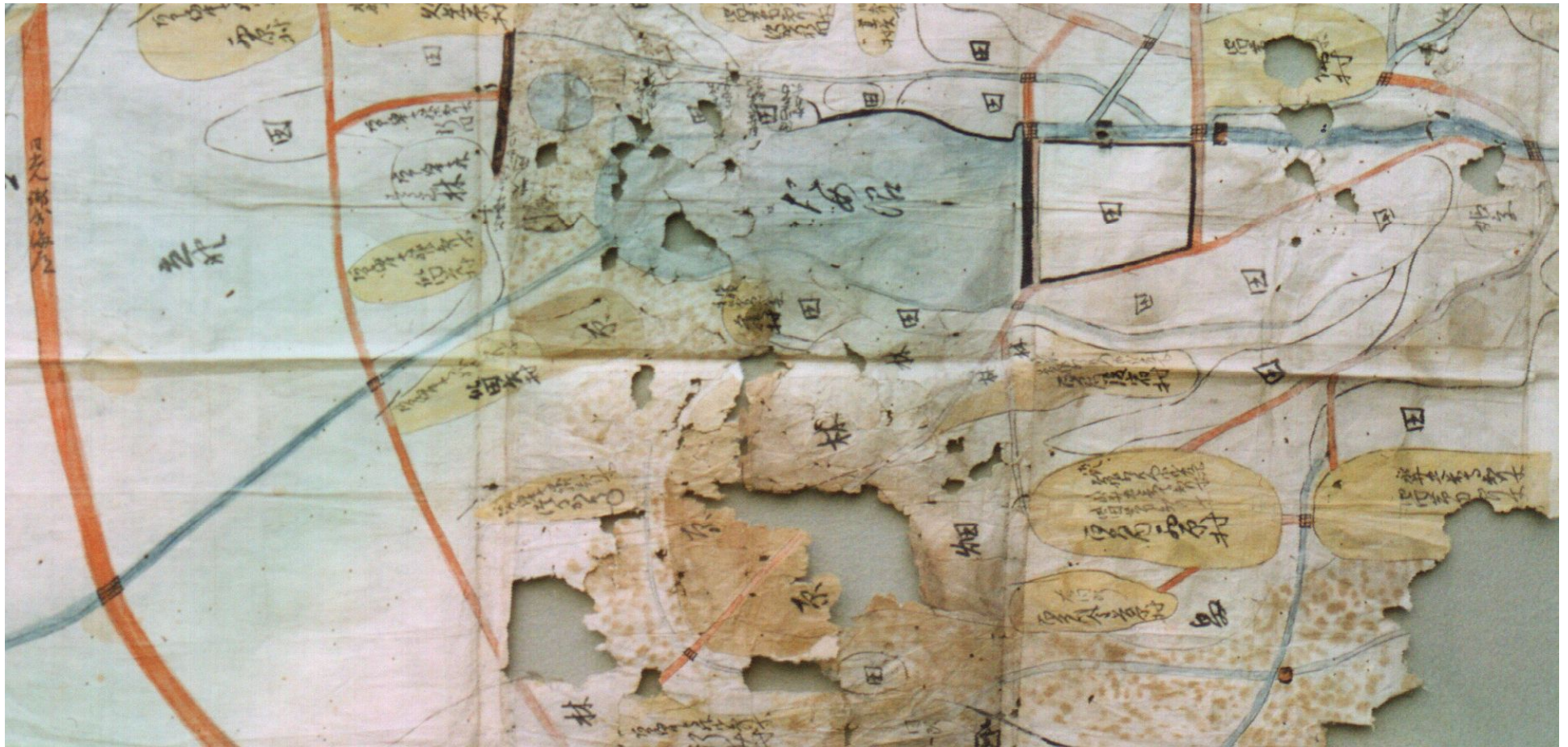
西光院復元図



五社神社本殿(宮代町最古の建造物 安土桃山時代)

○領主変遷





溜沼(笠原沼)水論絵図(万治元年頃)  
1658年







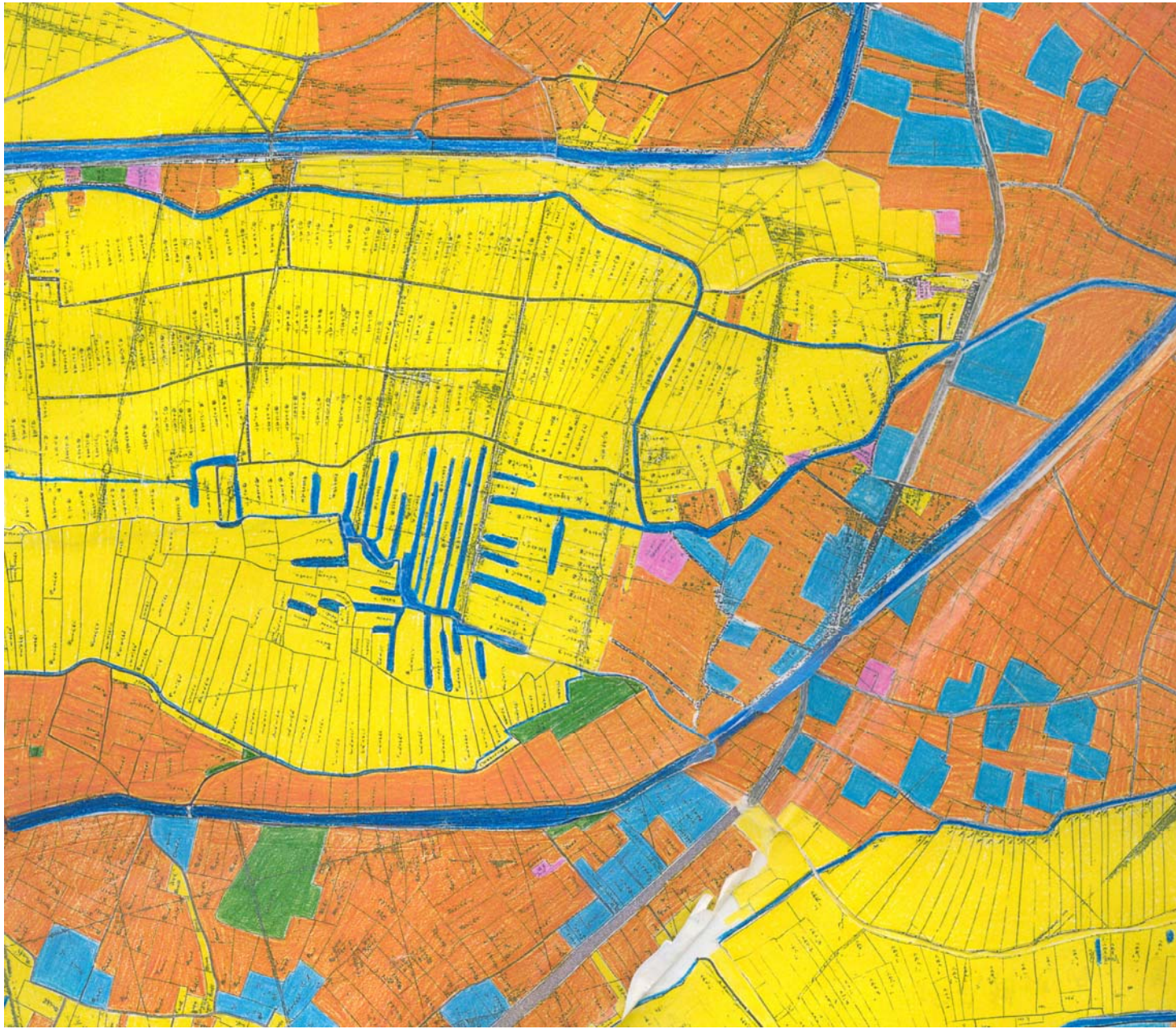
笠原沼周辺航空写真(昭和47年)



国納沼周辺航空写真(昭和30年代)



国納沼周辺アップ(昭和30年代)



明治10年頃の国納沼周辺地籍図



## 明治10年頃の村別分布図

灰色は和戸村、オレンジが国納村、黄色が西条原村

一國納村谷百粒古の原戸上川の地所下り見村  
境自納村玉納村恩水除地は納村園是年不  
五斗の山内納村玉納村下斗の河が流る  
八合の山内納村玉納村下斗の河が流る  
左納村の山内納村玉納村下斗の河が流る  
上斗の山内納村玉納村下斗の河が流る  
右斗の山内納村玉納村下斗の河が流る  
四斗の山内納村玉納村下斗の河が流る  
三斗の山内納村玉納村下斗の河が流る  
二斗の山内納村玉納村下斗の河が流る  
一斗の山内納村玉納村下斗の河が流る

和戸沖の山  
鈴木家文書

後北条氏印判状

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

拾壹文

久喜町内

久喜町内

久喜町内

久喜町内

久喜町内

久喜町内

天正十八年

六月廿日

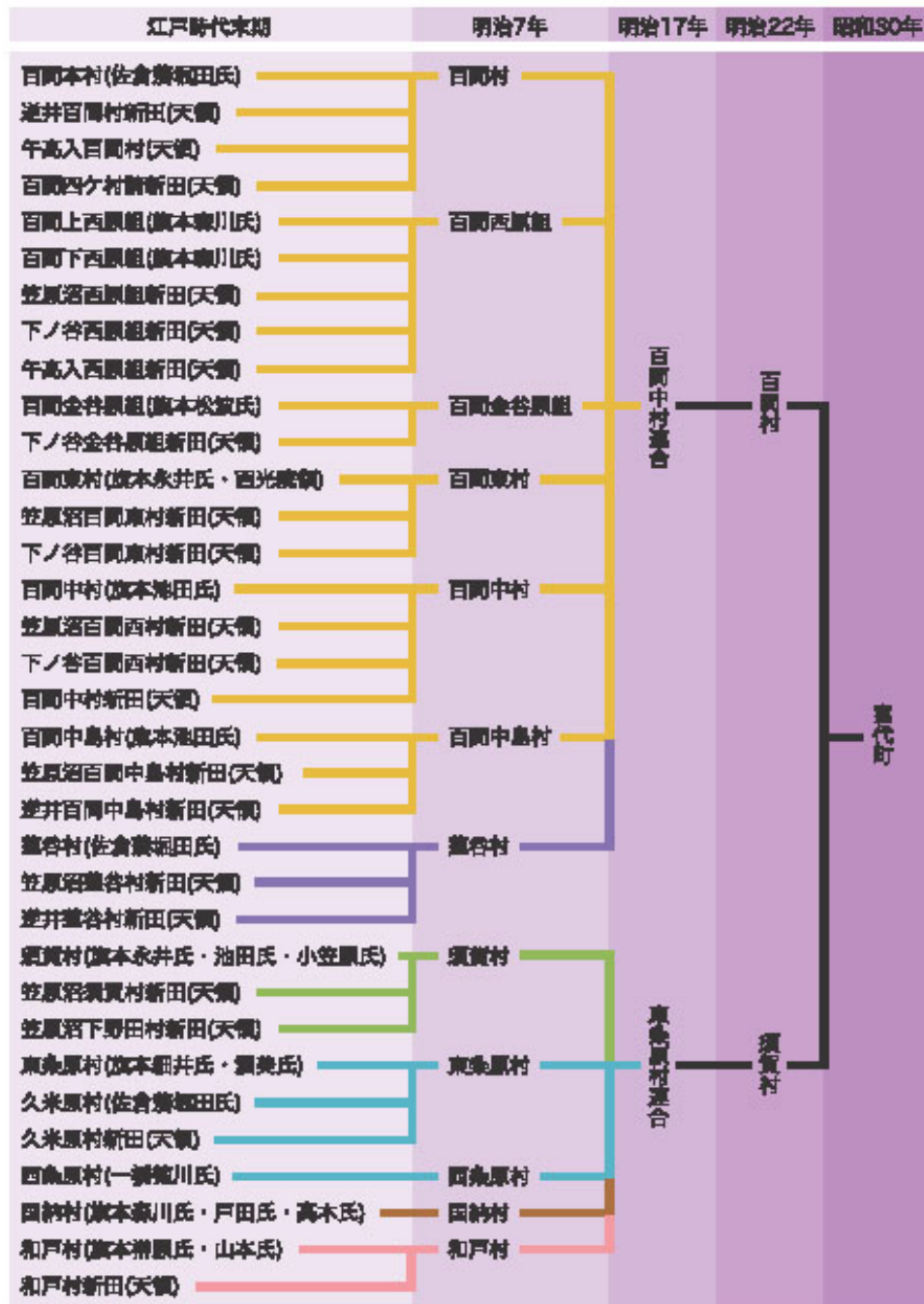
後北条氏

久喜町内

口由書

久喜市鷲宮町鷲宮神社文書  
後北条氏印判状  
天正18年(1590) 戦国時代





※明治17年の百間中村連合と東桑原村連合は各村の連合体で合併を表すものではない。

明治22年、百間村、須賀村誕生  
須賀村の役場は西条原宝光寺

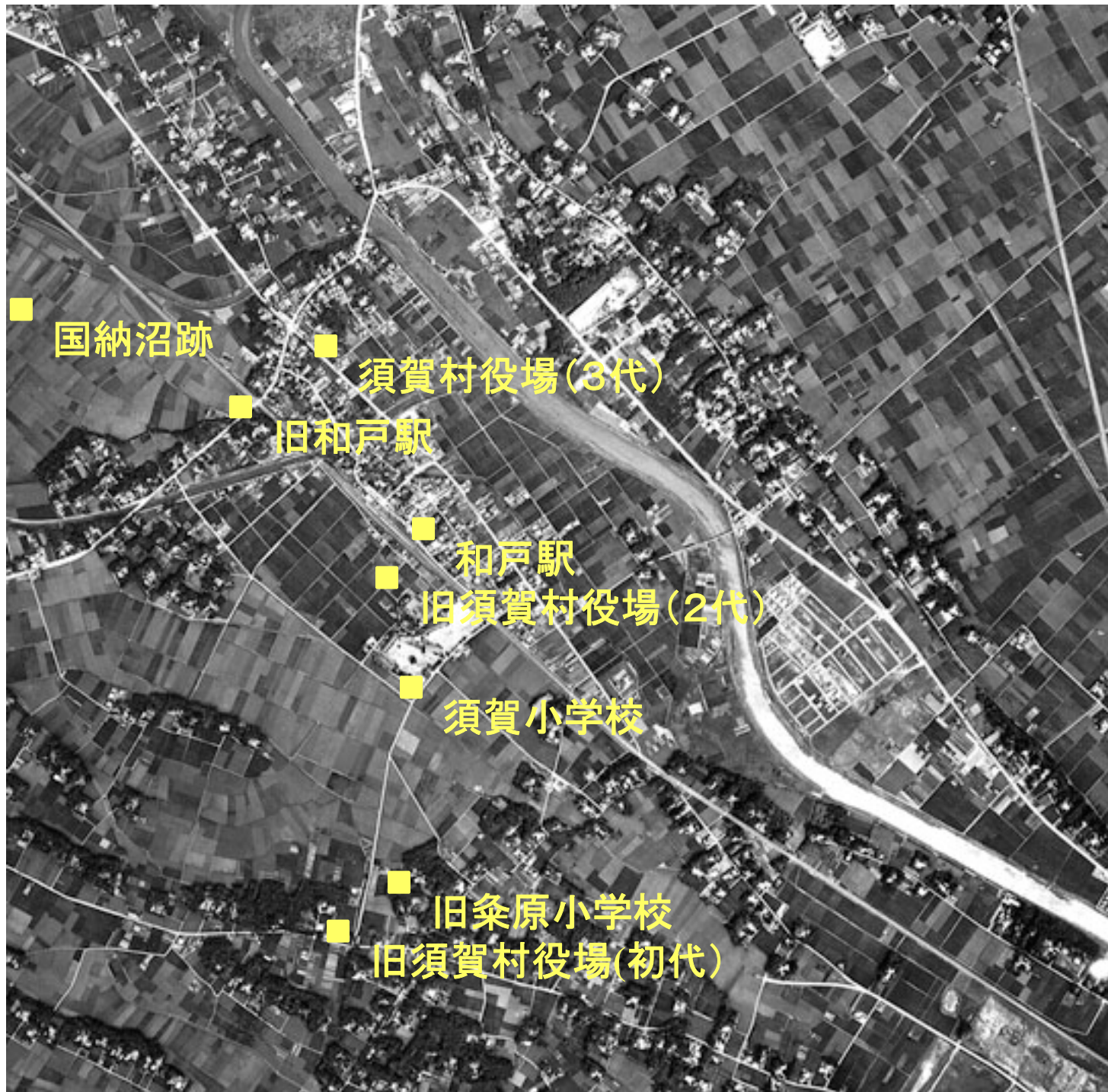
明治40年、国納丸屋地区(現在の和戸駅西口付近)に移転

大正3年3月、須賀村役場、現在の和戸公民館に移転

大正3年10月、和戸駅、御成街道付近から現在地へ移転

大正5年3月、桑原小学校から須賀小学校へ移転。

昭和30年7月、百間村と須賀村合併。  
宮代町の誕生



■ 国納沼跡

■ 須賀村役場(3代)

■ 旧和戸駅

■ 和戸駅

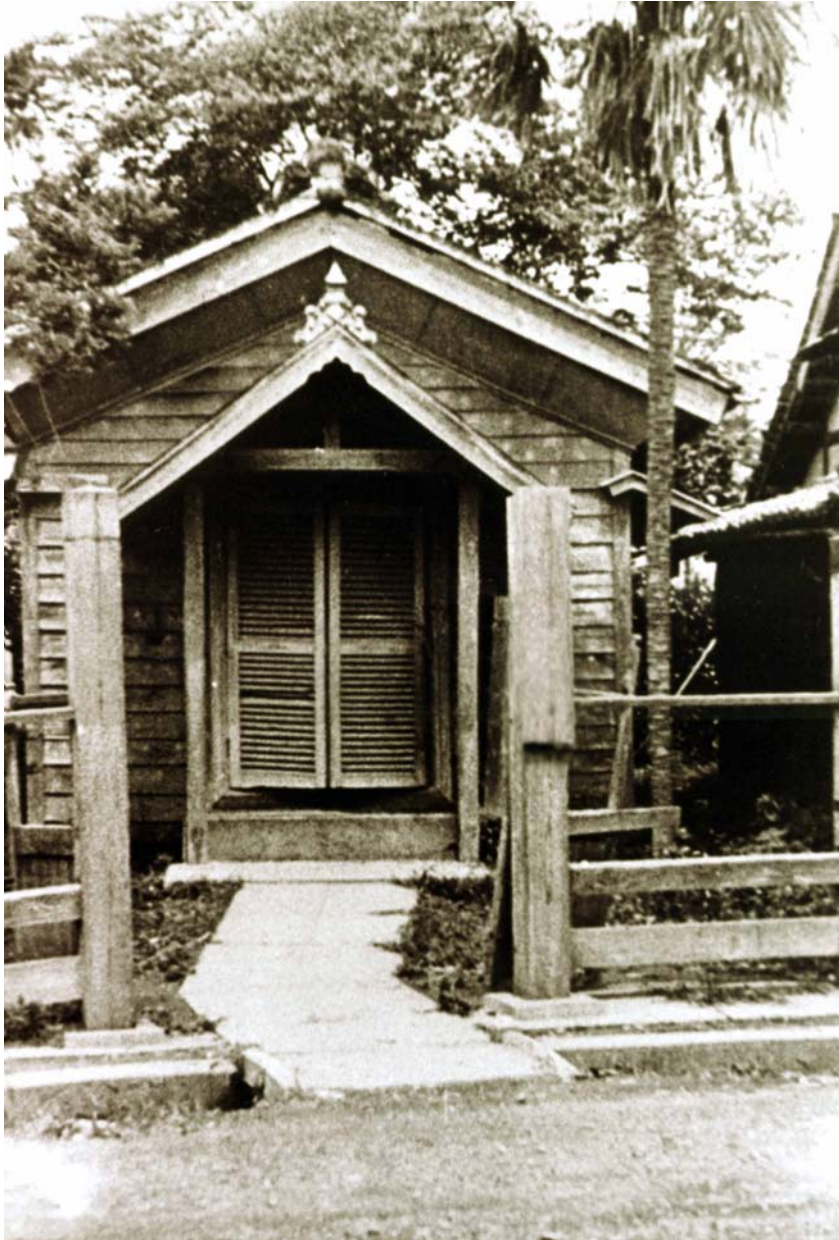
■ 旧須賀村役場(2代)

■ 須賀小学校

■ 旧桑原小学校

■ 旧須賀村役場(初代)

# 埼玉県最古のキリスト教会



明治11年に設置された和戸教会。当初は、小島九右衛門宅を使用していたが、明治15年、この教会堂が建設された。今のセブンイレブン付近。

小島九右衛門は和戸村の名主を勤めた人である。

# 須賀村の鎮守 身代神社



上が、本殿の覆屋、右が本殿



# 百間村の鎮守 姫宮神社



上が拝殿、右が本殿側面

